

勾玉づくり

(公財)広島市文化財団
文化財課

まがたま
勾玉はいつ、何のために作られたのでしょうか？

○ どんなもの？

勾玉は「曲玉」とも書き、この字のとおり「曲がった形の玉」のことです。
「玉」とは「美しい宝石」という意味を持っており、勾玉がアクセサリーとして使われたことがわかります。



勾玉と丸玉の首飾りをしたハニワ

○ いつ、材料は？

今から12000年から2300年くらい前の縄文時代に動物の骨やキバなどに穴を開けたものから始まったと考えられています。

2300年から1700年くらい前の弥生時代になると、素材には縄文時代から使われていた石(メノウやコハク、ヒスイなどの現在でも宝石として使われている石)だけでなく、ガラスや土などが使われるようになり、飛鳥・奈良時代にかけて作られました。



広島市内で出土した勾玉

○ 何のために？

勾玉は単なるアクセサリーとして作られたのでしょうか？

弥生時代の勾玉は、発見例が少ないことから、限られた人たちが、大切なものを身につけることによって、力の強さを示す道具として使われた可能性があります。さらに当時の人たちにとっては、お守りとしての意味があったようです。

また古墳時代(1700～1300年くらい前)になると、いのりやまつりをおこなった所からも出土しており、アクセサリーだけでなく、神を祭る道具としても使われていました。

○ どんな人が作ったの？

玉づくりには高度な技術が必要で、弥生時代になると工房(工場)で専門の技術者が集まって作っていたようで、全国各地に工房(工場)跡が残っています。また、「玉作」という地名はそこで玉の生産が行われていたなごりです。中国地方では、島根県玉湯町の出雲玉作遺跡があり、そこでは碧玉や水晶などの石を材料とした、玉が作られていました。

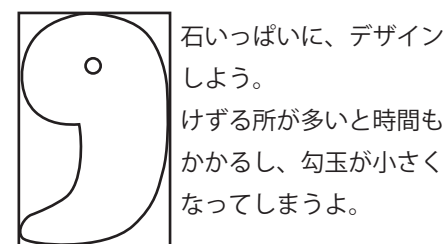
勾玉にはいろいろな材料で作られた、いろいろな形のものがあります。

それぞれ見くらべてみましょう！



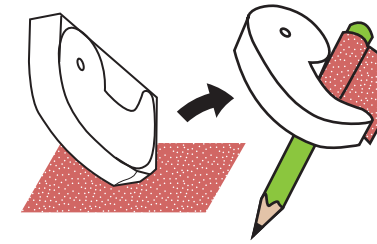
滑石の勾玉を作ろう！

①滑石にデザインをかこう



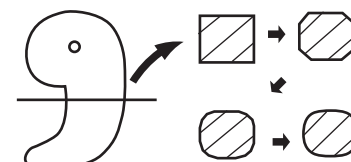
石いっぱい、デザインしよう。
けずる所が多いと時間もかかるし、勾玉が小さくなってしまうよ。

②めの荒い紙やすりで大胆にけずろう

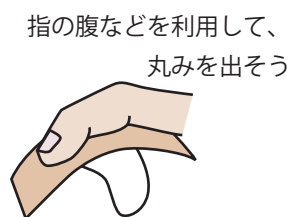


勾玉のりんかくをしっかりとけずろう。
くびれの部分は棒や鉛筆に紙やすりを巻き付けてけずるとうまくいくよ。
また、少しずつ角を落として、丸くしていこう。

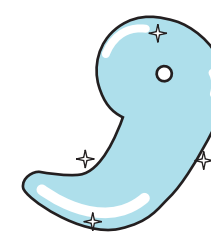
③めの細かい紙やすりで形を整えよう



断面で見ると角になっている部分をけずって、丸くしよう。



④耐水ペーパーに水をつけて、磨こう



くぼみの部分もくまなく磨いてピカピカにしよう。
傷がついた時のために、耐水ペーパーは持って帰ろう。

色をつけたい人は・・・蛍光ペンで色をぬって、いらぬ布やティッシュを使って磨くと、色がつくよ。